

体の動きと幼児とのやり取りを大切にした English Time からの一提案 — 帝塚山幼稚園における実践から —

Suggestions of Advancement in English with Focus on Physical
Movements and Interactions from “English Time”
at Tezukayama Kindergarten

森本 敦子¹・黒川 愛子²

Atsuko Morimoto Aiko Kurokawa

Elementary schools in Japan started teaching English as a subject to 5th and 6th grades twice a week in April 2020. Therefore parents of children are highly motivated in their children’s English education.

This paper will investigate English lessons held at Tezukayama kindergarten. The analysis of lessons is based on observations, digital recordings, and summary of questionnaires filled in by parents of students and teachers of Tezukayama kindergarten. The instructor of English Time is a Japanese English teacher who teaches English at Tezukayama Elementary School so that it is expected to explore the requirements for future Japanese English education for young learners.

1. 研究の背景

文部科学省 (2017a) により, 小学校「外国語活動」「外国語科」(以下, 「外国語活動」「外国語科」) の全面実施 (以下, 全面実施) が始まった。文部科学省 (2017b) では 2017 年 4 月時点で, 233 件 (小学校 2,392 校) が教育課程特例校として, 低学年から「英語科」や「外国語活動」等を導入していることを報告, ベネッセ教育総合研究所 (2019, p. 16) では, 全国の 4,565 園からの回答結果報告において, 通常活動で「英語」を行っている割合が, 私立幼稚園においては 62.4% で, 年齢別実施率は, 3 歳児において 5 割, 4 歳児では 8 割を超え, 5 歳児では 95% を超えていることを報告している。文部科学省 (2017c) では, 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について, 幼稚園教員と小学校教員が共有する等の連携を図り, 幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図ること」を掲げている。

本研究の参加者は帝塚山幼稚園児であり, 森本が指導を担当する帝塚山幼稚園 English Time (以下, E T) における参加者の反応を, 筆者らの授業観察記録 (以下, 授業記録) と, 参加者の保護者及び ET を参観した幼稚園教諭への質問紙回答を通して検証を行う。バトラー後藤 (2015, pp. 172–176) では, 質のよい学習をできるだけ多く行うことが外国語の熟達度を高めることにつながり, 早期英語教育の大きな鍵は「インプットの充実と動機づけを高めること」としている。本研究における ET は James J. Asher が幼児の母語習得の観察によって考案した Total Physical Response (以下, TPR) 原理を用いた体の動きを大切にした指導であり, 筆者らはバトラー後藤が強調する良質かつ十分なインプットを与える指導であると捉えている。TPR は (1) リスニングをスピーキングに先行させて十分に行う, (2) リスニング力は体の動きを通して伸ば

1 帝塚山小学校 教諭

2 帝塚山大学 教育学部 准教授

す、(3) レディネスが出来るまで発話を強制しない、という三つの原則 (Asher, 2009:2-4) に基づく。また、筆者らは、ETにおける教員と幼児とのやり取りを大切にすることで、幼児の発達段階に合うアウトプットを行うことができるとも捉えている。

本研究では、森本・黒川 (2019) 及び黒川 (2020) の追研究、幼小連携の取組、帝塚山小学校・大学教員の共同研究として、ICレコーダとビデオカメラを用いて行った2020年度1学期のET全時間の授業記録を基に、体の動きを伴う大量で豊富なインプット及び参加者とのやり取りを大切にETが参加者に与えた情緒面・語彙面への影響を調べ、その報告を行う。

2. 先行研究

TPRの利点については、黒川 (2020) で述べた酒井 (2014, pp. 134-135), 泉 (2017, p. 23, p.130) を参考にされたい。山本 (2018, p. 163) では、小学校でTPRを用いた指導を行い、「TPRは非常に効果的なリスニング活動であり、小学校の45分間の授業全てがTPRだと言ってもよい」としている。黒川は、日本人中学生を対象にTPRを用いた指導を行い、TPRのスピーキング力育成に対する効果 (黒川・鈴木, 2011), リスニング, リーディング, ライティング力育成に対する長期的影響 (黒川, 2012) やスムーズな小中接続に対する影響 (黒川・鈴木, 2014) を報告している。黒川 (2020) では児童・幼児を対象に行ったTPR指導についても報告を行っている。横井 (2017) では、年少・年中対象の各15分間の英語遊び、年長対象の約20分間の英語遊び (各2学級で計6学級) の観察を行い、3つの活動における年齢別の異なりについて調べ、外国人教師のStand up. Clap your hands. Jump. Touch your head with your hands. Clap your hands. 等の指示に対して、各年齢層の反応にどのような異なりがあったかを報告している。横井は、発達による遊びの形態の変化は、英語のみを用いても遊びの指示は伝わり、それぞれの発達に応じた遊びが成り立つと述べている。森本・黒川 (2019) では、小学校第3学年の英語授業において、教師と児童のやり取りの検証結果を報告している。筆者らが調べた限りでは、幼児の学級担任や保護者からの視点を含めた幼児英語教育研究は行われていない。その意味からも、本研究には意義があると考えられる。

3. 本研究の目的

筆者らの本研究における目的は、「体の動きと幼児とのやり取りを大切にETは、幼児の学級担任の視点から、どのように観察され、幼児の情緒面と記憶された語彙面において、どのような影響があるかを調べること」である。コロナ禍の中、幼稚園再開以降に行われた本研究においては、以下の研究課題を設定する。

研究課題1: 体の動きと幼児とのやり取りを大切にETは、幼児の日頃の様子を知る学級担任の視点から、どのように観察されるか。

研究課題2: 体の動きと幼児とのやり取りを大切にETは、幼児の情緒面と記憶された語彙面において、どのような影響があるか。

4. 研究の方法

4.1 参加者

参加者は帝塚山幼稚園年少組2学級 (以下、年少児) 計43名、年中組2学級 (以下、年中児) 計38名、及び年長組2クラス (以下、年長児) 計46名での6学級合計127名である。

4.2 手続き

4.2.1 ETの主旨と全体的な流れ

ETは「英語に親しむ」ことを目的としながら、小学校英語の導入となる初歩的な英単語の発音や意味理解、絵本を用いてのやり取り、英語の歌やリズム、会話、ゲーム活動、アルファベットを用いた文字指導の導入等を、「楽しさ」とともに提供することを意図して行われている。ETはほぼ英語のみで行われ、参加者の理解を促すために、教員は表情、体の動き、指導の補助となる視覚教材等を豊富に用いて、参加者の興味関心を惹きながら指導を行っている。ETでは、参加者の年齢による発達段階と学習経験年数を考慮し、その学習範囲となる言語材料を決定する。1回あたりの授業の流れは、どの年齢層のクラスもほぼ同様で、(1)挨拶と教員の英語を聴きながら体を動かすウォームアップ、(2)既習語彙の復習や新出語彙の導入、(3)絵本を用いた、参加者とのやり取り、(4)ゲーム活動、アクティビティー、(5)まとめ、である。

本稿では、紙数の都合から、指導内容の詳細は年少児対象のETに絞って報告を行う。

4.2.2 本研究におけるETの実施時期と実施時間

本研究では、2020年度6月及び7月の各2日間、計4日間に行われたETを調査対象とする。6学級の参加者とも、6月に2020年度初回ET（以下、6月ET）を、7月に第2回ET（以下、7月ET）に参加した。各ETの実施時間は約20分間である。

4.2.3 参加者（年少児）が受けた指導

年少児の初回6月ETで使用された言語カテゴリーは天気、色、数（1～10）、動物で、絵本は当該ETで扱う言語材料に合致した、色鮮やかな動物を数える仕掛け絵本 *Spot Can Count* (2013) が用いられた。ゲーム活動としては、「カードの枚数あてゲーム（1～10）」と「動物の真似っこ遊び」が行われた。第2回目にあたる7月ETでは、天気、色、数（1～10）、動物に関する英語を、参加者はフラッシュ・カードや体の動きを伴う活動の中で学んだ。絵本は天気に合わせて必要な小道具が絵本から飛び出して出てくる *Weather* (2014) が用いられ、その後、フラッシュ・カードを利用したゲーム活動の中で、参加者は6月の学習内容（sunny, windy, rainy 等）を復習し、さらに関連する語（sunglasses, a long scarf, umbrella, open, close 等）も学んだ。

4.3 分析方法

4.3.1 学級担任に対する質問紙

研究課題1の検証のため、参加者の学級担任（以下、学級担任）への質問紙（以下、学級担任質問紙）を用いて、その回答結果を検証した。ETにおいて、学級担任は参加者を見守り、時には参加者とともに、動作を行い、絵本を用いての教員と園児のやり取りを一緒に聞く参加形態であった。学級担任には複数の学級の指導補助や園全体の指導を行う教員も含まれる。学級担任質問紙は6月ET・7月ET当日に配布され、翌日に回収された。内容の詳細は割愛するが、(1)日頃の学級全体の様子、(2)ETにおける参加者の様子と日頃の様子に異なりがあったか、(3)ETにおける指導内容や参加者の様子をどう受け止めたか、に関わる質問であり、選択式回答は4件法で行い、回答理由や全体の感想については記述式回答とした。

4.3.2 授業記録

研究課題2を検証するための1つ目の方法として、授業記録を用いて、教員及び参加者の発話

の書き起こしを行った。本稿では、年少児対象のET授業記録から、体の動きを伴う教員の発話及び参加者と教員のやり取りを中心に報告を行う。

4.3.3 保護者に対する質問紙

研究課題2を検証するための2つ目の方法として、参加者の保護者（以下、保護者）に質問紙（以下、保護者質問紙）を用いた。紙数の都合から、詳細な内容の紹介は割愛するが、保護者質問紙には、ETについて参加者が保護者にどのようなことを話したかに関わる選択式と記述式の質問が含まれた。6月ET実施の質問紙には、園外の英語学習に関わる質問が含まれた。

5. 分析と考察

5.1 分析1：体の動きと幼児とのやり取りを大切にするETは、幼児の日頃の様子を知る学級担任の視点からどのように観察されるか

5.1.1 学級担任質問紙に対する回答結果の分析と考察

6月実施の学級担任質問紙には7名の、7月実施の学級担任質問紙には6名の先生から回答をいただき、回答率は100%であった。ETにおける参加者の様子と日頃の参加者の様子の比較では、「異なっていない・どちらかと言えば異なっていない」と回答した割合は、6月は100%で、7月では50%で、「異なっていた・どちらかと言えば異なっていた」という回答割合が50%であった。6月調査では、「異なっていない・どちらかと言えば異なっていない」と回答した理由として、「日頃から元気で体を動かすのが好きだから」、「日頃から楽しいことが大好きで、ETも積極的に参加し楽しそうに笑顔いっぱい活動していましたから」等が中心であり、7月調査でも、「日頃から体を動かすことが好きだから」を理由として挙げられた割合が33%であった。7月調査では、「異なっていた・どちらかと言えば異なっていた」と回答した理由として、「普段よりも集中していたと感じたから」、「少しおとなしいと感じたから」、「いつもよく発言している子ではない子がよく英語で発言していたため」が挙げられた。これらの結果から、学級担任が、「楽しい」・「体を動かすこと」がETにおいても必要であると考えていることや、6月ETにおいても7月ETにおいても、「体を動かすこと」が重視されていたと捉えたことが、記述内容から観察される。しかしながら、6月調査では、「言葉の違いに少し戸惑っている子も数人いたように思う」という記述もあり、ETにおいて、参加者全員の様子を観察しながら指導を行っていく重要性を再確認させる結果であると考えられる。

「参加者が楽しそうであったか」についての回答結果では、6月では「楽しそうだった」が100%、7月では、「楽しそうだった」、「どちらかと言えば楽しそうだった」の回答割合がそれぞれ66.7%、33.3%であった。「内容を参加者が理解できていたか」については、6月調査で「理解できていた」、「どちらかと言えば理解できていた」の回答割合がそれぞれ、14.3%、85.7%で、7月調査では50%、33.3%で、「どちらかと言えば理解できていない」の回答が1名（16.7%）であった。7月ETが参加者にとって理解できにくい場面があったと捉えた回答があったことは、ほぼ全て英語で行われるETが、参加者にとって理解可能な内容となるよう、さらに工夫を行う必要性を示唆していると考えられる。「参加者が意欲的であったか」についての回答結果は「意欲的だった」、「どちらかと言えば意欲的だった」の回答割合が6月調査ではそれぞれ28.6%、71.4%、7月調査では66.7%、33.3%であり、ETにおける参加者の様子が、7月のほうが「意欲的になった」と受け止めた学級担任が増えたことが観察される。「内容が発達段階に合っていたか」については、「合っていた」、「どちらかと言えば合っていた」の回答割合が、6月調査ではそれぞれ85.7%、

14.3%で、7月調査では66.7%、33.3%であった。この結果から、参加者の発達段階を最もよく知る学級担任がETの内容をおおむね発達段階に合っていたと受け止めたことが観察される。

学級担任質問紙内の全体の感想記述回答については、表1に「体の動き」と「幼児とのやり取り」に関連していると捉えられる記述回答に絞って、原文のまま示す。

表1 学級担任質問紙内の全体の感想内の「体の動き」と「幼児とのやり取り」に関連する記述

体の動き	6月	体を動かして色をさがすときにはみんなとても楽しそうでした。
		英語を聞いて動く（表現する）ところは特に楽しそうだったと思いました。
		体を動かすことが好きな子どもたちはとても喜んで参加していました。
	7月	黄色と言われて黄色の積み木を取り始めた子たちはとても理解できて参加していました。
		部屋の中で形をさがすときはみんな楽しんでいる様子でした。
		いつもの絵カードに加えてモンスターがあってモンスターが出てきたら席に戻るといのが見えて楽しそうだった。
や幼児取との	6月	頭で考えるだけでなく絵本を見て絵で覚えたり身体を動かしたりと参加型のことが多くて子どもたちもとても楽しみながら取り組んでいたように思います。
		長方形、三角形の形を英語で言って身の回りのどこにあるか探すことでより英語を身近に感じ楽しく活動していると思った。
		絵本でも先生に指名されたり、声をかけてもらえるとき、とても嬉しそうにしている子が多かったです。
		知っている数のところまでは目で先生と一緒に数えて楽しんでいました。
		こどもたちの心を集めて惹きつけていこうとするたくさんの仕掛け（教育的配慮）が詰まった授業でした。

表1から、学級担任がET内の『体を動かす』、『英語を聞いて動く』ことに参加者が集中し楽しんで参加し、『教員から関わってもらうこと』や『教員と一緒に取り組むこと』に嬉しい気持ちを持ち、楽しんでいる」と捉えたことが推察される。参加者の集中度をやり取りの中で持続させる工夫に関わる探究の必要性を示唆する記述もあり、探究を深めたい。

5.2 分析2：体の動きと幼児とのやり取りを大切にせるETは、幼児の情緒面と記憶された語彙面においてどのような影響があるか

5.2.1 授業記録からの分析と考察

表2に6月ETにおける体の動きを伴ったETの授業記録を、表3には7月ETでの絵本を用いた参加者とのやり取りに関わる発話記録を示す。ともにコロナ禍により、教員も児童もマスクを付けた状況の中で取り組んだET内の発話記録である。Tは教員、S1, S2は個人の参加者を示す。参加者は教員にリピートしたり、同時に発話したりする場面もあり、参加者だけが発話している箇所をSsで示す。括弧内の記述は教員及び参加者の体の動きを示す。

表2及び表3から、参加者が体の動きを伴いながら教員の大量の英語を聴き、教員とともに動作を行い、意味理解を伴った豊富なインプットを受けていることが観察される。また、絵本という視覚教材や教員の体の動きを助けに、参加者は教員とともに動作を行いながら、絵本の内容理解を行い、教員は、参加者の発話がない場面でも、参加者の反応を見ながら、参加者とやり取りを続けており、年少児対象のETでは、教員と参加者のやり取りは、教員とともに行う動作や、うなずき等の非言語的なやり取りも大量に含まれていることが観察される。

表2 6月ET授業記録による体の動きに伴う発話記録

(手を上にあげながら) T: Stand up, please. S1: Stand up, please. (その他の園児は無反応) T: (ジャンプと同時に) Stand up, please. OK. Sit down, please. (言いながら座る) (ひざを一回叩いて) Sit down, please. T: Now sit down, please. Ss: (数名がその場に立つ) Can you stand up? Ss: (立った園児は椅子に座る) Sit down, please. S2: Sit down, please. T: Yes. (園児の顔を見ながら) Very good. (手を振りながら) Hello. Ss: (手を振りながら) Hello. T: (手を振りながら) Hello. Ss: (手を振りながら) Hello. T: Yes, let's start! (手を見せ指を動かしながら) Can you count ten? (1本ずつ指を曲げながら) One...two...three... Ss: One... two...three... (右手を耳にあてながら) four...five...six... seven...eight...nine...ten! Very nice. (両手を下から上に上げて) Then, why don't we stand up? (立つ) Ss: (立つ) T: Will you stretch your body? Can you stretch your body? Can you do it? Ten seconds. Let's count! (両手を上に組んで) OK. Ready? Go! Ss: (園児は同じ動作をする) T: (つま先立ちをして, リズムをとりながら) One, two, three, four, (左右に体を曲げながら) five, Ss: (園児も左右に体を曲げながら, Tと一緒に数える) T:six, seven, eight, nine, ten! Can you shake your hands? Ten seconds? Ready? Go! T: (肩を回しながら) One, two, three... Can you move your shoulders? Ready? Go! T: Can you jump? Ten seconds? Ss: (園児は声をあげて喜びながら, ジャンプをする。) T: Wow! You are so good! Very, very good! Can you skip? Ten seconds? Ready? Go! One, two, three... (その場を回りながらスキップをする) Wow! You are so nice! I want to show you something. Please sit down. (手招きをしながら) Please come and sit down please. Ss: (園児は自分の椅子のところに戻って座ろうとする) T: (床に座り, 手招きをしながら) Can you come around here and sit down? Come, come, come! Sit on the floor. (床に手をつけながら) Sit on the floor. Sit, sit, sit. Ss: (指導者の周りに集まり, 次第に床に座る) T: ちょっとだけ離れて座ろうか? Sit down, please.

表3 7月ET内でWeather(2014)を用いた教員と参加者とのやり取りに関わる発話記録

T: House. Ss: House. T: What's this? Ss: Mmm. T: Roof. Ss: Roof. T: What color is a roof? Ss: Orange. T: How about this? How do you call it? S1: Window. T: Yes. Window. How about this one? S1: Door. S2: 扉 T: You have a door too. What color is the door? S3: Red. T: Yeah, what color is your door? Ss: Pink. T: Thank you very much. A pink door. Next page! (こっそり教員だけが次ページを見る。) Wow! Ss: (驚く). T: I have to show this to ○○ sensei. ○○ sensei? 学級担任に見せる。) T2: (驚く動作) ハッ! Ss: 喜び叫ぶ。 T: Wow! Do you want to see it? Ss: Yes. T: Do you really want to see it? OK! Please open! Ss: Please open! T&Ss: 1,2,3 Open! (開けて見せる。) T: Oh! What's this? S1: Umbrella! T: Umbrella! It's raining. Can you say "It's raining"? Ss: It's raining. T: Let's open the umbrella. T&S (傘を開ける動作をしながら) シュッ, プシュッ, Open! T:Nice. (傘を閉じる動作とともに) Close your umbrella. T&Ss: Close! パチン! プシュッ, カジャッ! T: Nice. One more time. T&Ss: Push, open! Close. T: (次のページをこっそり見て) Oh! (かなり驚き) Wow! Do you want to see it? Ss: Yeah. T: (前の園児にこっそり見せる) Oh! (全体に向けて) Do you want to see it? Ss: Yeah. T&Ss: Please open! 1,2,3 Ss: Open! OH! So cool! What are these? Sunglasses! Ss: Sunglasses. T: Everybody, let's put your sunglasses on! Ready, steady, go! (教員と参加者がサングラスをかける動作する。) Wow! So cool! Nice, nice! (本の文を読む。) When it's sunny, Ss: When it's sunny...T: you need sunglasses. S4: Sunglasses. T: Do you like sunglasses? S1: Yes. T: When sunny, you can keep yourself cool. OK? Next page. (本を見せながら) We have the weather of sunny, rainy, ... S5: Rainy. Sunny! T: What comes next? What's next? Snowy? Ss:○○sensei! T: OK, let me see... (次のページをこっそり見て) Oh! チラッ! T&Ss: Please open! 1, 2, 3, open! T: (次ページを開けて) ダダーン! Wow!! Ss: (叫ぶ) T: What's this? What's this? グルグルグル Wrap yourself up...what's this? Scarf! Ss: Wow! T: When it's windy, ... Ss: Windy... T:... you wrap yourself up with a long scarf. Do you have your scarf? T: (次ページをちらっと見て) Wow! ○○sensei. T2: (驚いて) おお! Ss: (叫ぶ) T: Please open. 1, 2, 3. What's this? S1: Snowy! T:Mmm...snowman. Snowy. What vegetable is this? T: Carrot. If it's snowing, I need a snowman. T: Snowman. Ss: Snowman. T: But when it's rainy...when the weather is really, really terrible, ... (本の少女を指さして) Oh, look! Is she crying? Look. Raining, raining hard... (本の少女を指さして) I stay at home, and read my book. The end. 本を閉じながら, 最後のページを見て) OH, look! This is THIS book. OH, she's reading THIS book! Same book as yours. Look! "Weather" book. The end.

5.2.2 保護者質問紙内の参加者の園外学習に関わる回答結果の分析と考察

6月ETと7月ET当日に配布された保護者質問紙に回答くださった保護者数は, それぞれ, 年少組では1名の欠席者を含む35名, 33名, 年中組では29名, 26名, 年長組では34名, 29名であった。園外での英語学習に対する回答結果では, 園外での英語学習を行っている参加者の割合は, 年少児, 年中児, 年長児で, それぞれ, 41.7%, 51.7%, 38.24%で, 年中児では5割を超えていた。過去に行ったが現在は行っていない割合は, 5.6%, 6.9%, 11.8%で, 全く英語学習経験がない参加者の割合は, 52.8%, 41.4%, 50%であった。これらの結果から, 同年齢児であっても英語学習の経験を持つ参加者と持たない参加者が同教室内に存在することは確かであり, この

点を意識し、園児の理解度を把握し対応していく工夫の継続が必要である。

5.2.3 保護者質問紙内の参加者のETへの反応に関わる質問への回答結果

保護者質問紙内の「ETのことを参加者が自宅で話したか」についての回答結果では、「自分から話した」・「聞いたら話した」の回答割合が、6月ETと7月ETでは、年少児では62.9%から93.9%に、年中児では75.8%から85.5%に、年長児では88.3%から89.6%へと、7月のほうが6月よりも、保護者にETのことを話した割合が増え、年長児はその増えた割合が顕著であった。

「たずねても話さなかった」・「全く話さなかった」参加者の割合を、6月ETと7月ETで比べると、年少児で26.3%から6%、年中児で24.1%から15.4%、年長児で11.7%から10.4%と減少した結果であった。この結果から6月ET時よりも7月ET時のほうが参加者のETに対する意識が高まったと観察される。特に年少児の9割が7月ETのことを保護者に話したという結果から、「保護者に話す内容があり、帰宅後もETの学習内容が記憶に残っていた」と推察される。

保護者質問紙内の「ETに対する参加者の気持ちはどのようなものだったと感じるか」という内容の質問に対する回答結果を表4に示す。

表4から、保護者が感じられた、ETに対する参加者の気持ちとして、「楽しい」・「嬉しい」・「意欲的」・「元気」という肯定的な回答を選択した割合は、6月ETと7月ETとで比較すると、年少児では85.7%から118.2%、年中児では86.2%から103.8%に増加し、年長児では162.5%から131.0%と減少していることがわかる。複数回答のため、厳密な比較は行えないが、参加者がETを肯定的に受け止めたと捉える保護者の割合が年少児と年中児においては増え、年長児では減ったことがわかる。これらの結果から、年少児と年中児においては、ETにおける動作や活動を直接的に保護者に伝え、年長児はETの内容を言語化しようとして、保護者に伝えることが難しいと察知したことからの反応であるとも推察される。

表4 保護者回答による、参加者のETに対する気持ち

組	月	楽しい	嬉しい	意欲的	元気	難しい	困っている	無関心	消極的	わからない
年少	6	42.9%	22.9%	11.4%	8.6%	5.7%	2.9%	0.0%	0.0%	11.4%
	7	69.7%	15.2%	12.1%	21.2%	0.0%	3.0%	0.0%	6.1%	15.2%
年中	6	44.8%	13.8%	17.2%	10.3%	3.5%	0.0%	3.5%	0.0%	3.5%
	7	61.5%	19.2%	15.4%	7.7%	15.4%	0.0%	11.5%	3.9%	3.9%
年長	6	81.3%	31.3%	31.3%	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.6%
	7	75.9%	17.2%	20.7%	17.2%	3.5%	3.5%	0.0%	0.0%	10.3%

表4からは、「難しい」・「困っている」・「無関心」・「消極的」・「わからない」という否定的な反応を保護者が選択した割合が、年少児で20.0%から24.2%、年中児では10.4%から34.6%、年長児では15.6%から17.2%と増えていることもわかる。コロナ禍による登園再開直後に行われた6月ETは参加者にとって非常に新鮮であったであろうことや、7月ETでは、参加者の「理解したい」という意識がより高まってきたからの結果であると推察される。

表5に参加者が6月ETについて伝えた内容を、表6に7月ETについて伝えた内容を示す。

表5 6月ETについて参加者が保護者に伝えた内容

組	内容	絵本	色	動物	食べ物	ゲーム活動	先生	歌
年少	8.6%	14.3%	14.3%	22.9%	0.0%	8.6%	17.1%	5.7%
年中	13.8%	10.3%	27.6%	6.9%	13.8%	3.5%	13.8%	0.0%
年長	37.5%	40.6%	31.3%	31.3%	31.3%	34.4%	31.3%	3.1%

表6 7月ETについて参加者が保護者に伝えた内容

	内容	絵本	色	動物	食べ物	形	先生	ゲーム活動	天気	その他
年少	18.2%	15.2%	24.2%	15.2%	3.0%	3.0%	15.2%	18.2%	6.1%	3.0%
年中	26.9%	26.9%	3.9%	0.0%	0.0%	26.9%	15.4%	11.5%	0.0%	3.9%
年長	34.5%	24.1%	3.5%	3.5%	10.3%	37.9%	13.8%	27.6%	0.0%	0.0%

表5及び表6から、年長児が保護者に伝えている情報量が多く項目で最も高いことがわかる。母語の発達差により、年齢が上がるにつれて、学習内容を伝える力が備わり、より詳細に多岐にわたり伝えることができるようになることが観察される。特に「内容」の数値が、年齢が上がるにつれて高くなり、年長児が保護者にETの流れや保護者が把握できる内容を伝えた割合が高いことも観察される。

表5及び表6の結果から、項目「内容」を除いた具体的な語彙項目を数値が高い順に並べたものを表7に示す。表内の数字が順位を示す。

表7 6月ET及び7月ETについて参加者が保護者に伝えた具体的な語彙項目の順位

年少	↑ 6 月 E T ↓	① 動物	② 先生	③ 絵本・色	↑ 7 月 E T ↓	① 色	② ゲーム活動	③ 絵本・先生
年中		① 色	② 食べ物・先生			① 絵本・形		③ 先生
年長		① 絵本	② ゲーム活動	③ 色・動物・食べ物・先生		① 形	② 内容	③ ゲーム活動

表7から、各年齢層で保護者に伝えた語彙項目が異なることがわかる。表7で示した順位は、各年齢層がETで学んだ言語材料の中で、どの語彙項目に興味を示し、保護者に伝えたかを示していると捉えられよう。6月ETについては、年少児では動物や色などが上位に入り、年長児では「絵本」の数値（6月、40.6%）が最も高く、年長児が絵本を用いての教員とのやり取りに興味を示したと推察される。年少児では7月ETで「教室内でbrownをさがして触ろう」という活動を行ったため、「色」が最多となり、その活動を「ゲーム活動」と捉えた年少児は、「ゲームをした」と保護者に伝えていると推察される。年長児では、7月ETで「形」が最多となっている。年長児は7月に「教室内でcircleをさがして触ろう」というような、教員の英語を聴いて動作を行う活動を行っており、それが印象的で、「色」または「ゲーム活動」と捉えて保護者に伝えたことと推察される。参加者が体の動きを伴って行った学習活動をよく記憶して、保護者に伝えていると考えられる。年中児においては、年少児から年長児への移行期にあると推察される。小学校英語で児童に人気がある「ゲーム活動」が年長児の記憶に残る活動であったことから、年長児の好みや学びの傾向が小学校低学年と重なる点があることも観察され、「幼小接続」を意識した指導の重要性が本研究から示唆されたと考えられる。今後も探究を続ける必要がある。

6. 結論

6.1 結果

本研究では、体の動きと幼児とのやり取りを大切にした指導が、幼児の日頃の様子を知る学級担任の視点から、どのように観察されるか、及び、幼児の情緒面と記憶された語彙面においてどのような影響があるかの検証を、授業記録及び学級担任と保護者への質問紙回答結果を通して試みた。

先述の考察を基に次のことが言えるであろう。

- (1) 体の動きと幼児とのやり取りを大切にした指導は、幼児の日頃の様子を知る学級担任の視

点から見て、幼児にとって、楽しく・意欲的に取り組み、幼児が理解できる発達段階に合う指導であると推察される。

- (2) 体の動きと幼児とのやり取りを大切にされた指導は、幼児を最もよく知る保護者の視点からも楽しい・嬉しい・意欲的な・元気な気持ちで取り組める指導であると推察される。
- (3) インプット段階で体の動きを大切にする指導は、幼児の理解を助け、語彙面で記憶に残りやすい指導であると推察される。
- (4) 幼児とのやり取りを大切にされた指導は、幼児の言語的反応のみならず、非言語的な反応も導き出し、理解を促す指導であると推察される。

6.2 課題

今後の課題としては、ETにおける、インプット・アウトプットの質、量の検証を行いながらどのような体の動きを用いた指導、どのような幼児とのやり取りを行った指導が、幼児の内容理解を促し、より良い幼児英語教育、幼小接続にもつながっていくのかの探究を続ける必要がある。

本研究が、幼児英語教育、「外国語活動」・「外国語科」指導、及び幼小接続の取組の一例として貢献できれば幸いである。

謝辞

熱心にETに取り組んでくれた帝塚山幼稚園の園児たち、本研究の主旨・実施・結果の公表等に同意し、質問紙回答にご協力くださった保護者の皆様、担任の先生方、終始、本研究にご理解・ご支援くださいました塚本真紀園長先生を始めとする教職員の皆様に心より感謝申し上げます。

参考文献

- Asher, J. J. (2009). *Learning another language through actions. (7th ed.)* Los Gatos, CA, Sky Oaks Productions.
- バトラー後藤裕子 (2015).『英語学習は早いほど良いのか』岩波書店.
- ベネッセ教育総合研究所 (2019).「第3回 幼児教育・保育についての基本調査 速報版」https://berd.benesse.jp/up_images/research/All_web.pdf.
- Eric H. (2013). *Spot Can Count*. Penguin Books Ltd.
- 泉恵美子 (2017).「2章関連分野からみる外国語教育の意義と方向性」樋口忠彦・加賀田哲也・泉恵美子・衣笠知子編著.『新編小学校英語教育入門』16-27. 研究社.
- 黒川愛子 (2012).「日本人中学生のリスニング、リーディング、ライティング力育成に対するTPRの長期的影響に関する実証的研究」『英語教育研究 (関西英語教育学会紀要)』35, 79-97.
- 黒川愛子 (2020).「TPRを用いたこどもたちへの外国語教育」『帝塚山大学子育て支援センター紀要』1, 29-38.
- 黒川愛子・鈴木寿一 (2011).「日本人中学生のスピーキング力育成に対するTPRの有効性に関する実証的研究」『LET関西支部研究集録』13, 93-11.
- 黒川愛子・鈴木寿一 (2014).「小学校外国語活動と中学校英語教育とのスムーズな接続に対するTotal Physical Responseの有効性に関する実証研究」*Language Education & Technology*, 51, 51-80.
- 文部科学省 (2017a).『小学校学習指導要領 (平成29年告示)』文部科学省.
- 文部科学省 (2017b).「教育課程特例校について (平成29年4月現在)」. <https://www.mext.go.jp/>

component /a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/15/1284970_001.pdf.

文部科学省 (2017c). 『幼稚園教育要領解説 (平成29年告示)』.

森本敦子・黒川愛子 (2019). 「小学校英語授業における教師と児童のやり取りの分析 ～授業の談話記録からの考察～」『帝塚山大学教育学部紀要』 1, 75－84.

Nicola K. (2014). *Weather*. Egmont Books Ltd.

酒井英樹 (2014). 『小学校の外国語活動の基本のき』大修館書店.

山本玲子 (2018). 「第10章小学校でのリスニング指導」鈴木寿一・門田修平編著『英語リスニング指導ハンドブック』159－166. 大修館書店.

横井一之 (2017). 「幼稚園の遊びを通した英語活動における総合的な指導についての一考察」. 『東海学園大学教育研究紀要』 1, 155－160.